

例年より早くインフル流行、札幌は「注意報レベル」に到達「これだけの学年、学級閉鎖は記憶がない」コロナとの同時流行の懸念も

2024/12/13 北海道放送



<https://news.yahoo.co.jp/articles/ef99effa23ba3111a15f794717fb3593c1c3f443>

本格的な冬を迎えるこの時期、こちらも本格的になってきたのがインフルエンザの流行です。札幌市では、注意報レベルを超えるなど猛威をふるっています。

今年も残すところ2週間あまり。忘年会やクリスマスなど楽しい行事が続く年の瀬ですが、いま、例年よりも早く流行しているのがインフルエンザです。

・時崎愛悠記者

「インフルエンザで、学級閉鎖となった2年生のクラスです。実は2年生、昨日までに別の2クラスが学級閉鎖となっていました」

札幌市中央区の緑丘小学校ではインフルエンザによる学級閉鎖や学年閉鎖が相次いでいます。

・緑丘小学校 田中義直校長

「これだけ多くの学級閉鎖や学年閉鎖が出るのは、あまり記憶がない」

札幌市教委によりますと、札幌市内の小中学校は13日夕方までに、41校で学級閉鎖、4校で学年閉鎖となっています。

流行は数字にも表れています。13日発表された札幌市の1医療機関あたりのインフルエンザの患者数は、15・07人。前の週から一気に2倍近くに急増、注意報レベルである10人を超えました。

札幌市豊平区のクリニックです。こちらの男性は検査の結果、インフルエンザの陽性でした。このクリニックでもインフルエンザの患者が急激に増えているといいます。さらに懸念されているのが。

・とよひろ公園内科クリニック 藤本晶子院長

「インフルエンザは、先月の最終週から急に出てきた、コロナもそれに伴い少し出てきた。高熱の場合は両方検査する必要がある。微熱しかなくても両方検査したほうがいい」
新型コロナとの「同時流行」です。13日に発表された札幌の1医療機関あたりの新型コロナの患者数は6・83人と右肩上がりに増えています。

先週、新型コロナに感染したHBCのスタッフの男性です。手洗いやうがいなど対策をしていたものの、感染は防げなかったといいます。

・先週コロナに感染したHBC男性スタッフ

「陽性反応後は、嗅覚・味覚がなくなり、何を食べても飲んでも同じ味」

・とよひろ公園内科クリニック 藤本晶子院長

「ワクチンの接種率が悪い、本来インフルエンザのワクチンは10月に定期接種できるが、10月の接種は打ちに来る方が少ない印象。一番効果的なのはマスク。手洗い、うがいも大事だが飛まつ感染からくる」

インフルエンザに新型コロナ、いずれも主な感染経路は飛沫感染。

楽しい年末年始を過ごすためにも大切になるのはやはり、基本的な感染対策です。

コロナ感染者2週連続増 前週比1.27倍

12/14 共同通信

厚生労働省は13日、全国約5千の定点医療機関から2~8日に報告された新型コロナウイルスの新規感染者数が1万5163人だったと発表した。1医療機関当たり3.07人で、前週比1.27倍。2週連続で増加した。

岩手、秋田、大阪、和歌山を除く43都道府県で前週を上回った。1医療機関当たりの感染者数が多かったのは秋田9.31人、北海道9.27人、岩手8.21人。少なかったのは沖縄0.80人、鹿児島0.84人、和歌山0.88人など。

全国約500の定点医療機関から報告された新規入院患者数は1658人で、前週比1.17倍だった。

EU、新型コロナのレプリコンワクチン承認へ 開発元の米企業が申請

12/16(月) 毎日新聞



欧州連合（EU）の医薬品規制当局、欧州医薬品庁（EMA）は「レプリコンワクチン」と呼ばれる新たな新型コロナウイルスワクチンについて販売承認を勧告した。12日付。EUの行政執行機関である欧州委員会が近く、承認を正式決定する見通し。

同ワクチンを開発した米創薬ベンチャーが承認申請していた。現在、レプリコンワクチンが実用化されているのは日本のみで、国内での供給、販売の契約を持つ「Meiji

Seika ファルマ」が2023年11月に製造・販売の承認を受けた。今年10月からの定期接種のワクチンに加わっている。

レプリコンワクチンは、メッセンジャーRNA（mRNA）が細胞内で複製されるため、従来のmRNAワクチンよりも少ないmRNAの接種量で感染を抑える抗体の量を長く維持できるとされる。【高橋由衣】